

教科	理科	学年	2年	時間数	4 / 週
使用教科書	・未来へひろがるサイエンス2 (啓林館)				
副教材	A カラーブック 理科資料 栃木県版 (とうほう) B 理科の学習2 啓林館版 (浜島書店) C 学習の達成 理科2年 啓林館版 (新学社) D わたしたちの理科研究 (栃小教研理科部会栃中教研理科部会) E 整理と対策 理科 令和5年度版 (明治図書) F 整対ノートW 理科 (明治図書)				
	② Bについて、自宅においての復習、定期試験前の学習に使用する。 Cについて、単元終了時に確認、定期試験前の学習に使用する。 →専用ファイルに綴じて保管する。 Dについて、理科の自由研究の参考にする。 E Fについて、課題として受験を視野に入れた学習に使用する。				
<b>学習の目標</b>					
自然の事物・現象に関わり、理科の見方・考え方を働かせ、見通しをもって観察、実験を行うことなどを通して、自然の事物・現象を科学的に探究するために必要な資質・能力を次のとおり育成することを目指す。					
(1) 自然の事物・現象についての理解を深め、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本的な技能を身に付けるようにする。 (2) 観察、実験などを行い、科学的に探究する力を養う。 (3) 自然の事物・現象に進んで関わり、科学的に探究しようとする態度を養う。					
第2学年では、自然の事物・現象の中に問題を見だし、予想や仮説を基に、解決の方法を発想したり、多面的に調べる活動を通して、その結果を分析して解釈する力を育成する。					
(1) 電流とその利用 電流とその利用についての観察、実験などを通して、次の事項を身に付けることができるようにする。 ・電流、磁界に関する事物現象を日常生活や社会と関連付けながら、理解するとともに、観察、実験などに関する技能を身に付けること。 ・電流、磁界に関する現象について、見通しをもって解決する方法を立案して観察、実験などを行い、その結果を分析して解釈し、電流と電圧、電流の働き、静電気、電流と磁界の規則性や関係性を見いだして表現すること。					
(2) 化学変化と原子・分子 化学変化についての観察、実験などを通して、次の事項を身に付けることができるようにする。 ・化学変化を原子や分子のモデルを関連付けながら、理解するとともに、観察、実験などに関する技能を身に付けること。 ・化学変化について、見通しをもって解決する方法を立案して観察、実験などを行い、原子や分子と関連付けてその結果を分析して解釈し、化学変化における物質の変化やその量的な関係を見いだして表現すること。					
(3) 生物の体のつくりと働き 生物の体のつくりと働きについての観察、実験などを通して、次の事項を身に付けることができるようにする。 ・生物の体のつくりと働きとの関係に着目しながら、理解するとともに、観察、実験などに関する技能を身に付けること。 ・身近な植物や動物の体のつくりと働きについて、見通しをもって解決する方法を立案して観察、実験などを行い、その結果を分析して解釈し、生物の体のつくりと働きについての規則性や関係性を見いだして表現すること。					
(4) 気象とその変化 身近な気象の観察、実験などを通して、次の事項を身に付けることができるようにする。 ・気象要素と天気の変化との関係に着目しながら、理解するとともに、観察、実験などに関する技能を身に付けること。 ・気象とその変化について、見通しをもって解決する方法を立案して観察、実験などを行い、その結果を分析して解釈し、天気の変化や日本の気象についての規則性や関係性を見いだして表現すること。					

